

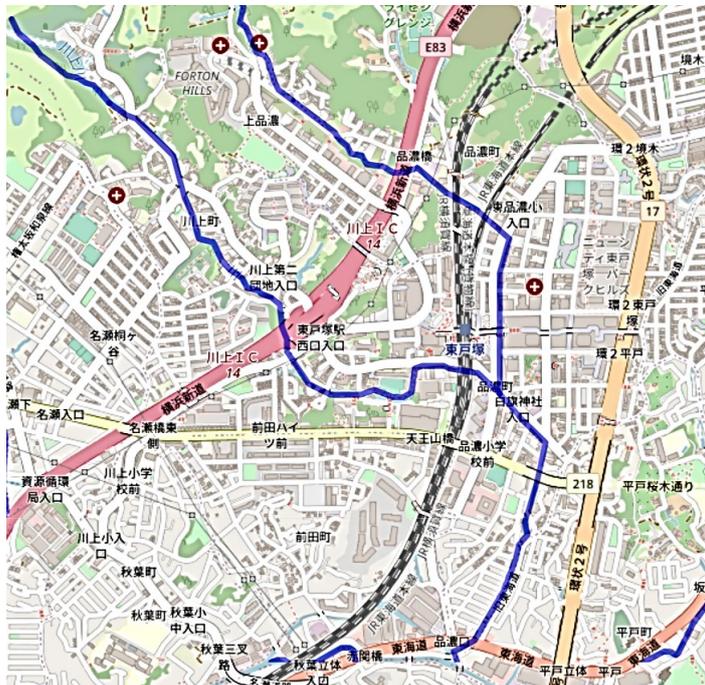
Q2 開発前の、昭和時代の品濃町はどのような姿だったのでしょうか？

A

・先ず、「地図」と「写真」と「絵」をご覧ください。

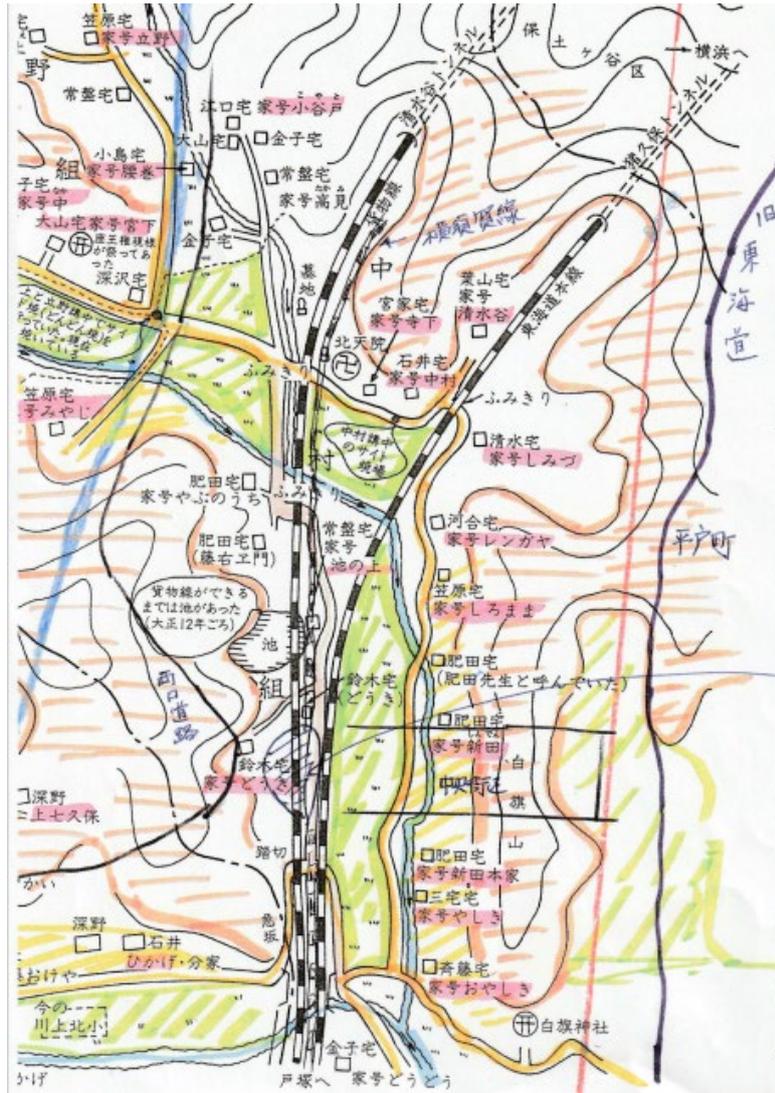
・右の「地図」は、ネットで『川の名前を調べる地図』を検索すると出てきます。今は暗渠になって見えない川も姿を見せてくれます。南の川が「川上川」、北の川は名前がありませんが「品濃川」という人もいます。2本の川は、合流した後は国道一号線の「品濃口」へと流れ、「平戸永谷川」に流れ込んでいます。

・下の「ジオラマ模型」は第一開発興業株式会社が作成したもので、品濃小学校に寄贈されています。



・右の「絵」は、昭和18年生まれで生粋の品濃町育ちの笠原美和さん（税理士）が昭和の初めの頃の様子を描いたものです。2本の川が流れており、字「堂々」（今の「品濃町交差点」辺り）で合流していることが分かります。

・笠原さんの絵を見て「昔はこうだったのか」とびっくりさせられるのは、東戸塚駅（線路を丸く囲い斜線をしているところ）から旧東海道までの風景です。線路の側に田圃があり、田圃に沿って道が走り、道に沿って川が走り、川と白旗山に挟まれた山裾に家々が連なっています。そして、白旗山の向こうにはもう家は描かれていません。「写真」の「西谷戸地区」を見ると、白旗山の東は田圃→畑→丘陵→旧東海道と、東に行くほど高度が高くなる様子が見て取れます。



・「西谷戸」とはこの白旗山の東の田圃が連なっている辺りをいうようですが、単に「西谷」書いて「にしやと」と読ませている例もあります。例えば、白旗神社の氏子会館の裏にあるお堂に行ってみてください。側に立つ「地神塔」を見ると、左の側面に「品濃村 代西谷講中」と刻印されています。品濃村の西谷講中を代表してこの「地神塔」を建てたという意味だと思いますが、地神塔の正面を見ると、この塔が安政六年未年三月吉日に建立されたことが分かります。因みに「地神」とは産土神、農耕の神をいい、農民は春分と秋分に最も近い戌（つちのえ）の日を「社日」とし、「地神講」を営んでその日は仕事を休み、講中で豊作を祈り、収穫に感謝したといます。「社日」の「社」とは、古代中国で地神を「社」といったことに因むとのこと。

